

UA神奈川学習センター ふゆだより

2004/1/1 発行

第7巻第1号(通巻25号)

目次:

特集

「学生と所長の座談会」 2

ボランティア活動 3

学生研修旅行 6

学生団体・サークル
のお知らせ 10

放送大学神奈川学習センター
〒232-0061横浜市南区大岡2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

<http://u-air.net/kanagawa/>

E-Mail:social@u-air.ac.jp



「螺旋雪華」イラスト:坂戸五葉

神代和俊センター所長と学生の座談会

学生募集の広報



南区にある「放送大学神奈川学習センター」で先月16日、学生と神代和俊同センター所長との座談会が開かれた。通信教育を通じて「いつでも、どこでも、誰でも学べる」生涯学習の中核的機関として知られる同大学。学生には社会人、主婦、定年退職者らが無試験で入学。自分の目的、ペースにあわせて学んでいる。座談会では3人の学生と神代所長が入学のきっかけや「キャンパスライフ」について語った。参加したのは同大学の全科履修生として教養学部に着籍を置く岡田晃さん、森一恵さん、森詩子さん。

入学のきっかけ

企業で働く人の心のケアをする「産業カウンセラー」を目指しているという岡田さんは、以前通っていた講座で「もっと深く勉強するなら」と放送大学を薦められたと話す。大学では6専攻のうち「発達と教育」を専攻、主に心理

を学んでいる。森一恵さんは、助産婦の仕事の続けながら学んでいると話す。「少子化も言われていますし、また女性のライフスタイルも変化している中で、助産婦も様々なサポートが求められているんですよ」と。

一方、以前映画学校で脚本を学んでいたと話すのは、森詩子さん。「脚本家を目指して、もっと知識を身につけたい」と、入学を決めた。うつ病というハンディキャップを持つと話す森詩子さんは、「一般の企業に勤めるのは自信がないので、脚本やマンガ、絵画など自分を表現する職につければいい」と夢を語っていた。

学習ニーズにあわせた幅広い科目

3人が籍を置く「教養学部」では、学士（教養）の取得を目指す全科履修生と、自分の興味のある分野だけを学ぶ選科・科目履修生があり、約300科目という幅広い分野から目的にあわせて学ぶことができる。さらに修士の取得や、より専門的な分野を学ぶ「大学院」がある。神代和俊同学習セン

ター所長は、「通信教育で、自分の人生にプラスになるように学んでもらうのが当大学の趣旨。それだけに学生の質も高い」と話す。

テレビ・ラジオによる通信教育

3人がいずれも、メリットとしてあげたのが「自宅で学べる」という点。放送大学では地上波、衛星放送、ケーブルテレビで毎日放送される授業の中から自分の選択した授業を視聴する。録画・録音をすれば、自分の好きな時間に学習が可能だ。また学習センターには、全講義のビデオやテープが保管されていて、センターで視聴することもでき、3人とも良く利用している。神代所長は「近い将来、インターネットを利用したブロードバンド授業も取り入れられると思う」と言及。さらに「学びたい人が、より学びやすい環境づくり」を目指していくとのことである。（「タウンニュース」から再掲）

放送大学教養学部学生・修士科目生募集

平成16年度第1学期

- ・出願受付：平成16年2月29日必着
- ・授業開始：平成16年4月1日
- ・現在資料配布中
- ・興味のある方・入学を希望する方には、入学手続きや授業内容を記しました募集要項と授業科目案内を無料でお送りします。はがき又は電話で、神奈川学習センターへ請求してください。

TEL：045-710-1910

特集：
ボランティア活動

私のボランティア

蛭田 正和

以前に、ボランティアで、消防団の活動を手伝っていました。夜間に訓練を行い、昼間の仕事中でも、火事が起これば、団の消防車で駆け付けました。しかし、このように消火活動に参加したことも、今では昔話となりました。

ここ15年ぐらい前から、私がかかわっているボランティア活動は、海外からの農業研修生受け入れの手助けです。この活動で、タイ、マレーシア、インドネシア、ブラジル、中国、フィリピン、ドイツの農業研修生に出会うことが出来ました。私にとって貴重な体験です。

私は、農業経営をしています。我が家では、ここ10年間ほぼ毎年、約1ヶ月の短期間ですが、タイのタマサート大学の農業研修生の受け入れを行っています。毎日、私の家族と一緒に食事をし、生活を行い、作業をして、日本の生活習慣や、農業を学んでもらうプログラムです。習慣や、言葉の壁などが傷害となって、確かに大変なところはあります。自分の家族の暮らしや、作業は学生にとってどう映っているのだろうかと思いつくこともあります。彼らの理想とは離れているのではないかと迷うこともあります。開始時の不安そうな顔、途中の施設見学で他のタマサート大学の仲間たちが集合したときの顔、終了時の嬉しそうな、寂しそうな顔。どんなことを、日本の暮らしで感じ、体験し、考えたのでしょうか。これは自己満足かもしれませんが、毎年ヤッテ良かったと終了時には思います。

今年来た学生の名前は、Petch。中国系タイ人です。彼女は、今まで我が家に来た学生の中で、一番日本語が上手でした。ちょっと嬉しかったです。

私の家族は日本語しか出来ないのので、開始時の顔合わせのときに、私がタイ語で自己紹介したら、彼女は嬉しそうな安心したような顔をしていました。(もっとも、私が、知っているタイ語は、挨拶と、自己紹介程度のみですが。)毎年、日本で、いろんなモノを見たり、いろんな人と知り合ってもらいたいと思っていますが、何せ、農業の性格として人と知り合う機会がどうしても少ないのが悩みです。いろいろと、あたふたしながら、行っているのが実情です。

今年は、私が放送大学全科生として入学したこともありますので、ここで知り合った放送大学の仲間たちと、弘明寺観音の見学と食事会の機会を持ってもらいました。仲間感謝いたします。また、日本にはこんな大学があり、さまざまな年齢の大学生がいることを知ってもらえて良かったと思います。彼女にとって良

い刺激になってくれたかな？ 私は、放送大学に入って、年齢に関係無く、若々しい精神を持った仲間に出会えて本当に良かったと思います。

10年ぐらい経ったら、日本で経験した事の感想と、その後の暮らしと併せて聞けたら良いなと思っています。負担は大きいですけど、何かわかりませんが、将来きっと大きい喜びになると思っています。実は、放送大学に入ったきっかけの一つは、彼らタマサート大学の学生のがんばりに刺激されたこともあるからです。条件が許す限り、この受け入れは続けたいと思っています。その間、きっと放送大学で、私と知り合った方々には、このことで何かお願いすることもあるかと思えます。その折には、皆様のボランティア精神で暖かい協力をよろしく願いいたします。Thanks!



高橋 徳美

サマーキャンプに参加して

特集:
ボランティア活動

昨年の7月に松下政経塾で、高校生・大学生・大学院生を対象に、サマースクール(2泊3日)があり、“これからの教育を考える”という分科会に論文を提出し、参加してきました。

合宿では毎晩3時まで討論したり、語り合ったりと、とても楽しく充実していました。ある人は、自分の住んでいる家の周りの環境問題のことから、行政に対してとても問題意識をもっており、将来は困っている弱い立場の人達を救うため弁護士になりたいという夢を語ってくれました。また、ある人は父親が市民グループから市議会へと当選し、その後母親と一緒に父親の初めての議会を見学に行った時に、周りの議員の人達から羽交い締めにされている父親の姿を見て、子どもながらにくやし涙を流したこと、地域活性のためにNPOで活動している話、バイトで塾の講師をしていて教育の現場を違う視点からみているいろいろ考えている話、父親が学校の先生をしており今の学校教育の現場の話など。みんな一生懸命がんばっており、けっして自分の未来を悲観していないその姿に元気パワー

をもらったような気がします。

私はそこで“敗者復活”という言葉を彼等に教えてもらいました。人生はいつでもやり直しがきく、また、そういう世の中にならなければならないんだと。私が一番の最高齢でした。子育てをしながら地域で子どもたちと一緒にバレーボールのサークル活動をしている話、PTA活動の話、現代の子育てにはお金がかかるという話など実際の現場の話として受け入れてもらいました。

また私の論文の中の、神奈川県立保健福祉大学の山崎教授の、子育て支援“育児保険”の話などはじっくりと聞いてもらえました。山崎先生の育児保険の話は日経新聞の記事で知ったことなのですが、今回の合宿の参加に当たり電話し、直接お話を伺うことができました。快くお話をする機会を与えてくださった山崎先生にはとても感謝しています。

松下政経塾の創設者の松下幸之助氏の教育方針に“自修自得”、“切磋琢磨”、“現地現場”、“徳知体三位一体”という4つの言葉があります。私は今まで松下政経塾に通っている人達

をととても羨ましく思い、何もすることができないと決めつけていた自分をとても恥ずかしく思いました。ここで幸之助氏がやろうとしていたことは、誰でもどこにいても実践できることなのだと分かったからです。朝会の時に学生代表のあいさつをするようになりました。その中で、“徳知体三位一体”の話しにふれました。活動プログラムの中に朝6時に構内の掃除をした後ジョギングがあります、私は週に3日子どもと一緒に柔道をしているおかげで、一番にゴールができました。そのことなど、ジョークとして私には“体力”はあるのだと。また、徳之島という島で生まれ、祖母が私の名前に“徳”をつけてくれました。後はいっぱい勉強して残りのひとつの“知”を得ていきたいということ。そして最後に今回のこの合宿に快く参加させてくれた主人と3人の子どもたちに大変感謝していることなどを。今回の合宿は20代を子育てに終わったわたしにとっては、とても充実した楽しい一時でした。まさに青春の1ページです。

特集:
ボランティア活動

NGOの新しい役割

若林 孝次

私はボランティア活動をしてきたというより、むしろドナー(支援者)として関わってきた方が大きいと思います。「100万円をラオスの学校に図書室を開設してみませんか!」という或るNGOの呼び掛けに応じ、ピエンチャンを中心に4つの学校図書室を開設してきました。

また、日本で出版された絵本で日本語で書かれた箇所、ラオス語に翻訳した紙を貼り付ける活動に参加したこともあります。しかし、私にとって何か満足できず、もの足りなさを感じていました。

そのNGOは日本語のわからないラオスの子どもに、日本の本をただ送るのではなく、ラオス語で読めるようにして、「読む楽しさ」をラオスの子どもに味わせてやりたいということで、ラオス語に翻訳した紙を貼り付けて送る事が、そのNGOの読書推進運動支援プロジェクトの目的の1つになっているようです。私がもの足りなさを感じているのは、絵本が持っている特性です。美しいカラー印刷の絵本は子どもの感性を育むかもしれませんが、ただ、絵本は短いストーリーであるが故に、絵本作家の意図がすぐに分かってしまうことです。「読む楽しさ」とは「読

み解いていく楽しさ」があるのではないのでしょうか。

私は絵本よりもデューラーのような美術書を送りたいと考えていました。ラオスに学校図書室を開設したのも、後日私が美術書を送る受け入れ先を考えてのことでした。しかし、これはうまくいきませんでした。そのNGOはドナーから寄付されると、新しく図書室を開設し、更に何か月か経て、子どもたちがその図書室を利用しているカラー写真とお礼の書面をドナーへ送りますが、それですべてが完了してしまうのです。すなわち、そのNGOは2001年には学校図書室を1件開設、2002年は××件開設しました、と事業報告



して終わってしまうのです。ドナーにとっては、その図書室に対して今後も継続して図書を補充していきたいと考えているのですが、このあたりは、NGOとドナーとの間で考え方が違っているようです。ドナーにとってはNGOが用意している事業キャンペーンに賛同し、寄付して、後はすべてそのNGOに一任して終わってしまい、翌年度はまた新しく学校図書室開設の募集が始まるのは、何か寂しい思いがします。

そこで、私はドナーとして1つ提案してみたいと思います。NGOがその専門知識や情報収集、人脈などを活かして、どういう地域に学校図

書室の開設や図書室の補充拡大、更には校舎の補修など学校全般に関わる維持管理を必要としているか、それを実現するための費用の見積もりはいくらか、そしてその見積もり総額を項目ごとに細かく割り振ってドナーに寄付を求める、というようなその後の管理も含めたコーディネートの役割を務めて欲しいと思います。学校図書室の開設とか校舎の建設という1回限りの行為だけでなく、その後の永続的な管理にも重点を置く方が、学校図書室や校舎のある地域とドナーとの結びつきが自然と長く親密感をもってつながるのではないのでしょうか。

特集:

ボランティア活動

地域の福祉活動について

戸田 富士美

放送大学在学中は「生活と福祉」専攻に所属していた。卒業論文のテーマを探するため、福祉の現状や問題点について、実際の活動を通じてリサーチする必要があると考え、ヘルパー二級を取得し、横浜市の有料老人ホームと在宅訪問介護の職場で約二年半就労した。

施設では主に重度の障害・痴呆の方のケアをし、在宅では、失語症で片麻痺の奥様(Tさん)と膝関節症のご主人の二人暮らしの訪問介護を経験した。Tさんは穏やかな性格で、ご主人とはいつも仲むつまじく過ごされていた。最初のうちこそ、私とはコミュニケーションがとりにくく、食事の支度をするのにも好みが変わらなくて困惑したが、信頼関係ができてからは訪問することが楽しみにようになってきた。ある日、食事を召し上がるときに、お顔の表情からつらそうな様子が見られたので、お口の中を調べてみたところ、ひどい虫歯でかなり汚れていた。およそ一年以上の間、歯磨きや口腔ケアがされない状態であったとわかった。そこで歯科に受診してもらい、さらに歯磨きを介助する事で、おいしく食

事を召し上がることができるようになった。

しかし、それもつかの間、一人でトイレに行く途中、扇風機につまづき肋骨を骨折、入院することになった。病院では大部屋で、看護師が不足しているのもあり、また、むせこみもあったようで、面会に伺ったときは、鼻腔経管で栄養を取るとい、見るもお気の毒な状態であった。もう一度ご主人とお幸せに暮らせる事を願っていたが、一ヶ月後ご逝去されてしまった。

この時自分の無力さを痛感したことが、その後、良質のケアを提供するという趣旨を掲げる、NPO法人の訪問介護事業を設立する動機づけとなった。現在では専門医の先生のご協力を得て、セカンドオピニオンのカウンセリングも行っている。

さて、現代の介護保険のいちばんの課題として、サービスを提供する各事業所が縦割りであり、情報の共有が困難であるため、利用者の障害や痴呆の度合いを進ませていることが挙げられる。

実例として、一人暮らしのY子さん八十歳(生活保護受給者)は、痴呆

症状があり、身寄りもなく家にこもりがちの生活をここ二、三年送っていた。喫煙、アルコール依存症、金銭管理ができないなどの問題があり、また栄養状態が非常に悪いため自宅で転倒、右肩を脱臼されたところを近所の方が発見、入院された。

退院後は私たちヘルパー四名が交代で毎日二回訪問し、調理、健康管理、コミュニケーション、良好な生活環境の維持をサービスしている。また、金銭管理については成年後見人制度を利用する事になった。ほかに介護保険のサービスとして、訪問看護師、医師二名、ケアマネージャー、配食サービス(週一回)、区のケースワーカーがかかわっているが、中でもヘルパーがいちばん身近な存在である。

彼女がこのまま安心して、住み慣れた地域で健康的にも経済的にも精神的にも住みつづけることが今後の私たちの健全な老後「元気で未永く生きる」の展望となると考えている。(NPO法人「おもいっきりサポート訪問介護事業所、たすけあい事業所」管理者及びサービス提供責任者)

学生研修旅行 政府通貨と地域通貨の比較 -

昨年の11月27日に、神奈川学習センターの「学生研修旅行」が行われました。東京都豊島区にある造幣局と、神奈川県大和市のラプス・サポートセンターを訪れました。大和市では、大和市情報政策課の小林隆氏

と、ラプスサポート・センターの渡辺敦氏による「地域政策」「地域通貨」についての講演を聴いたのち、商店街に出て、「ラプス」という地域通貨の現場を見て回りました。今回参加者の感想文を特集しました。

伊藤 毅夫

今回の研修旅行では、法定通貨である貨幣の製造工場並びに貨幣博物館と、大和市が試行中の地域通貨「ラプス」の実施状況を見学しました。貨幣工場では、日常的に使われている貨幣が、非常に細密な作業の積み重ねによって造られていること。また、貨幣の取扱いが、金銭感覚というよりも、一種の物品として取扱われている状況を垣間見ることが出来たのは、興味深いことでした。

大和市の「ラプス」は、ICカード「大和市

民カード」を使用することによって「住民基本台帳カード」と同等の機能のほか、市の施設や講座などのイベントの利用予約などに活用されているほか、市民相互間での役務提供や物の交換の際、あるいは、商店街での買物の際に地域通貨としても活用するなど、行政当局やNPO法人が中心になって積極的に進められている様子を見て、行政事務の簡素化や地域経済の活性化のために、今後、有効な手段として期待されるものと思いました。

岡本 興和

去年と今年、2回連続しての研修旅行でした。車中での自己紹介と共に各人のお金に対するイメージを総括して、複雑で難解な貨幣や金融の仕組みを判り易く、坂井先生が講義してくれました。特にメキシコ銀のもたらした役割には私にとって印象的でした。16世紀以降、安価で大量のメキシコ産の銀がヨーロッパに流入した為、ヨーロッパの貨幣は一挙に1/3に下落し物価を高騰させ、価格革命を引き起こし、スペインの銀貨は、世界の主要通貨となったのです。我が国にもその銀は流入して、清国との貿易に使われた通貨銀は、このメキシコ銀貨をモ

デルにしたとの事です。金融機関を銀行と名付けるのもなるほどとおもいました。

造幣局東京支局の工場見学

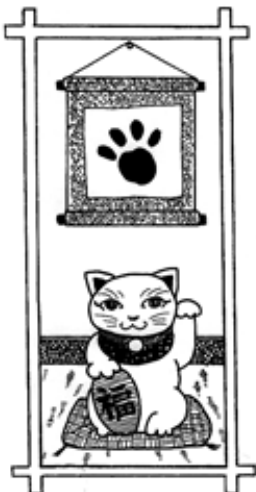
専用のヤスリや研磨工具を使って緻密な作業をしている人、デザインを描いている人、検査している人など、プルーフ貨幣や勲章などの製造工程を見学しました。また、この工場では、貴金属の品位証明や地金の分析試験などを行っている事も知る事が出来ました。工場内にある造幣東京博物館には、大判、小判の山吹色の輝きに魅せられたり、20kg入りの硬貨の重さも体感してみたものです。

小林 隆平

日頃「お金」なるものが在ることを当たり前と思い、特別の関心を払っていなかったためか、博物館に並んだ古銭から、丹念に作り上げられているプルーフ貨幣、または近年時折耳にする地域通貨の実際の使用現場を見ることで、「伝統的通貨」の歴史の変遷はもとより、通貨に様々な姿と役割と、捉えられ方があるものだと改めて認識させられた。普段、無為に過ごしているだけに知的好奇心が刺激される良い機会となった。

大和市の地域通貨「ラプス」の普及に関しては、行政と市民がいかに意欲的に取組んでいるかを知ることとなり、感心した。情報社会における行政サービスという

も、やゝもすると地域住民からは冷淡に受けとられがちなものだが、情報基盤整備、情報公開を市当局が率先し、NPOの協力の下、地域通貨の発行、普及に至る活動を行っている地域社会のあり方は実際問題として多くを考えさせられた。こうした活動の推進には、やはり、行政当局の中にどれだけ意欲ある人間が居るか、その呼びかけに応える地域住民が居るかにかかっている。要は、社会的な活動には「サービス精神」を弁えたリーダーの存在次第で、意欲と行動力のある「仕掛け人」がどうしても必要なのだと自分流に納得する機会となった。

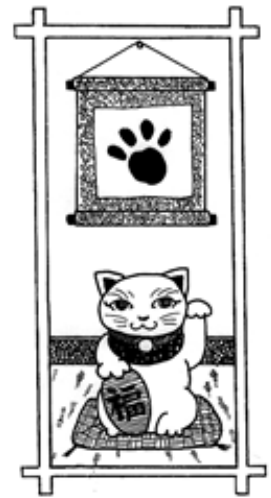


島田 貞子

造幣局は大阪にあるのみとっておりましたが、東京・広島に支局がありしかも財務省の独立行政法人であると知りました。東京支局では主にブルー貨幣セットが製造されており、一般流通の硬貨にくらべ磨き上げられた美しい収集用コインセットが作られていました。また勲章の製作も七宝焼きをとり入れたすばらしい工芸技術で大変美しく出来上がっていました。その他貴金属の品位証明・地金や鉱物の分析試験等も行っているということでした。広島支局では硬貨の材料となる地金の合金を溶かし貨幣の厚みにのばした金属板を作っているそうです。工場見学はともかく、バス中、坂井先生から出題された20問の研修旅行クイズ、私の解答は10問以下という始末にて学習課題が多く残りました。

午後は、大和市で地域通貨について学習

し、その活動現場を商店街で見学しました。通貨＝貨幣と考えていたのですが、地域通貨は必ずしもお金ではなく「地域の価値を交換すること」で、例えば、ボランティアをする人、受ける人、不用品の交換やエコロジー活動を通じて感謝や思いやりの心を交換すること、と云うことでした。この考えのもとになっているものは、お金を「陰・陽」で考え健全な通貨はこのバランスがたいせつだということ。現在世界的に「陽の貨幣」（男性的通貨）＝国家通貨が強い力を持ち、「陰の通貨」である平等ややささが欠けている。バランスがくずれている。そこで「陰の通貨」＝地域通貨の復活が大切だということ、この動きは世界中にあり、現在世界には3000の地域が、日本では320ヶ所でこのような活動がなされているということでした。新しい通貨に注目したいと思います。



当金 彦宏

神奈川学習センター主催の学生研修旅行は、昨年に続き2回目の参加ですが、前回とは訪問先が全く異り、それなりの勉強と見聞を広げることが出来ました。最初の訪問先「造幣局東京支局」ですが、紙幣を含めお金は全て造幣局で造られているとの先入観を持っていたため、紙幣は印刷局、造幣局はコインを造るところと聞いて、同じお金でも造る組織が違うということを初めて知りました。今迄如何にお金に縁の薄い生活をしてきたか、世の中を知らないということを感じた次第です。現役時代に電子部品業界に若干関係していましたが、コインの製造工程を見学させていただき、何だ電子部品の金属加工と同じではないか

と、妙なところに感心してしまいました。我国の電子産業の主生産場所は、現在では中国を始めとする東南アジア諸国に移行してしまいましたが、日本の電子産業の強さの根幹をなすものは金属板を精密に打ち抜く金型製造技術とプレス成形技術にあります。コインの偽造対策等にこれ等技術が応用されていることが解りました。大和市生涯学習センターでは、市民の為の情報交流システムを作り上げる過程をドラマチックに説明していただき、地方自治体の活力のすごさに感銘しました。地域通貨「ラブス」、解ったような、解らないような、みょうな体験でした、このテーマは次の課題と考えたい。

安喰 馨

造幣局は大阪（貨幣その他の製造の本拠地）にあり、支局とは製造部門以外の出先機関と許り思っていた。見学し実際の製造工場でもあると言う事の認識を得た事は望外の喜びである。硬貨を始め勲章類、メタル類等の美しい手作り加工工程と量産化される自動機械加工工程のこの両端機能が、何の矛盾も異和感もなく同居（？）している様子はとすると過熱気味な単純化へと志向する現代の物質文明の進化の把握の在り方に、一つの涼風を注いでいると言う安心感を与えてくれるものと思われた。

LOVESの研修は、地域通貨の現代的感覚の認識把握に参考になった。講義は判

り易くてよく要点が把握出来たが、現場の事情が一瞬気になった。この事は、福祉の行政及至、そのサービスを提供する側とそれを利用する人々の間に、何らかの乖離が拭い切れないものが日常茶飯事として存在しているのを見聞しているからである。講義終了後実施中の商店街の見学となったが、やはり様々な隘路、即ち利用者たる消費者と加盟店間の意思疎通の問題、加盟店そのものの意識の問題等で、LOVESの普及には時間がかかるとの実感を拭い切れない。従来の商慣習とか経済仕組みの中にこのシステムが浸透するには課題が山積していると思う。

神保 聡史

私は学生研修旅行に参加するのは今回が初めてである。その意味で、今回は新鮮な体験であり、かつ予想外に学ぶことが多かった。地域通貨について関心があった私にとって、今日のテーマは一見地味ではあるが、基より私の興味を引くものだった。だがそれ以上に思わぬ収穫があった。行政、そして運営に携わるNPOや商店街の方の話を聞き、一方こちらからの意見や疑問をぶつけてみるという、今回のスタイルは、この問題についての自分の理解を深めるのにとっても役立った。地域経済振興という目的からだけでは、地域通貨の推進は難

しいことを、正に実例をもって理解すべきだ。

商店街の当事者である内田さんの悩みは、地域通貨を普及させることと、商売上採算を上げることの対立を物語っていたが、地域通貨構想の背景にある「他者との共生・コミュニケーションの回復」という哲学については行政・NPO・商店街の三者とも一致していたように思われた。それを知ったことは、自分にとって有意義な体験となった。私自身が日頃、ボランティア活動の際にしばしば感じていることでもあったからである。

渡辺 新一

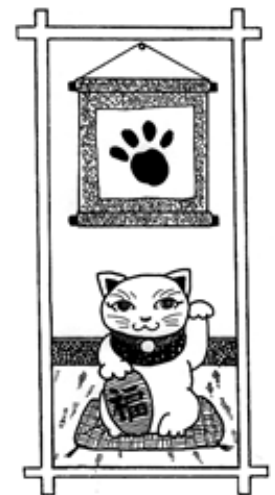
「お金」のことを俗に「おあし」という。「亀山殿（京都嵯峨に造営された離宮）の池に……水車を造らせられけり、多くのおあしを給かて……」。とあり、鎌倉期の随筆「徒然草」の記述が最も古いといわれる。又、江戸の昔逃げる「おあし」の章駄天ぶりが身にしみて感じたのは（庶民が特に）年の瀬にかけてであろう……。これはある新聞の編集手帳の冒頭のくだりである。

今回はこの「おあし」に関わる研修旅行で、車中での自己紹介に各自が「お金」にまつわる人生経験をエピソードを混えての苦労や楽しい話に耳を傾け、坂井先生指導の貨幣に関するクイズ形式の20問出題に日頃の知識やうんちくを発揮し学習意欲をかき立てられた。

午前中の池袋の造幣局と博物館では一般硬貨他記念のコイン、メダル、勲章等に製品証明や金属テストまで大正時代よりこの地で古代「和銅開珠」の昔から脈々と伝え

る技術と伝統が最新の機械と職人芸が相俟って成果をあげているその素晴らしさに驚嘆させられた。

午後は大和市における「地域通貨」の実体活動を勉強した。車中での西千葉における「地域通貨」「ピーナツ」をビデオでの予備知識にしながら、当地生涯学習センターにおける市の職員説明で「ITカード」の市民に提供するなかで、地域住民と行政の関りから、「コミュニケーション」を通じ、地域経済発展を商店会の活性化に「地域通貨」「ラブス」を活用し、ボランティアとサービスの心をNPOの方のアドバイスで現地見学と地域通貨の個別実体聴取学習を行った。特に印象的であった店主の話の終りの言葉来春の新しい「ラブ」に期待するというこの地域通貨の多様性とむづかしさを痛感させられた。今後の期待と発展を望みながら、貴重な体験と新しい発見を与えてくれた一日でした。



里見 絢子

経済学をまだ選択していない私にとって、坂井先生が同行して下さりまして、車中講座を開講して下さいましたことが、大変有意義なことと思われました。特に、マネーサプライについては、新聞や雑誌から得る情報だけを頼りに理解を深めてまいりましたので、目から鱗の思いでした。また、地域通貨制度についても、他の類似制度との概要比較を教えていただき、その上で、大和市を見学できましたことは、今後の地域通貨への関りの中で役立てて行きたいと心強い思いに至りました。た

だ、地域通貨の利用や運営については、困難な問題が山積されているようにも思われました。

造幣局の見学に際しては、貨幣が出荷される時は商品であると教えられました。この商品が貨幣となって流通を始めると、人の人生にも大きな影響を与えることになることを地域通貨と一緒に考えてみたいとも思われました。

山崎 真由美

私の専攻は「生活と福祉」で今回の研修旅行には直接の関係はなかったのですが、常日頃モノなどの売買のツールとしてあたり前のように使っているお金について考えるよい機会になりました。

大和市の地域通貨の“LOVES”については、正直言って研修旅行のしおりを読んだ時、市全体で何をしようと考えているのか目的が理解できませんでした。

講演を聞いて、市全体でITの推進を図り成功している大和市が“LOVES”を使って地域通貨としての機能だけでなく市民の地域社会への参加も狙いとしていることは理解できました。地域通貨の使用によってボランティア活動などの活性化を図りたい意図は分かりますが、実質的には大和市の場合円と同価値で現在使用されているように思える地域通貨は、かえってお金の基準を分かりにくくしている

と考えます。支払う対価の基準がないところが地域通貨の面白さでもあり、難しさでもあるというお話がりましたが、お金という昔から一つの基準としてきたものに新しい価値観を加えることに面白さや必要性を感じる人はまだまだ少ないと思います。(私もそのうちの1人です)それと、行政が先導するにせよ市が独自に実施するにせよ現場の意見(今回の場合は商店街)を十分に収集することの重要性を強く感じました。

今回の研修旅行を通して、お金の製造と流通、お金に対する価値観は多様であることを学ぶことができたには有意義でした。また、LOVESを推進しようとする方々と使う側、使われる側のそれぞれの思いを推察すると、お金は人と人との信頼関係を構築する(逆に破壊する)重要なツールでありただ単にモノの売買のための道具ではないのだなあとしみじみ感じました。

高橋 俊

大和はくにのまはるば

草の根民主主義とは少し引かかる言葉です。民主主義とは本来「民草」がこうゆう世の中にしたいという考えを日常の生活のなかに反映していくことではないでしょうか。

近頃あちこちで散見する行政の発案による市民サービスは、市民の背丈に合わない服を行政が市民に与えているのではないか。これは少しおかしいのではないかと声を上げた自治体と市民が大和市にいるという。研修旅行は大和市職員と市民がこの問題をどのように受けとめどのように取り進めているかを直に見聞する機会となり有意義であった。

大和市では、若手職員が中心となり、IT利用により市民との双方向のコミュニケーションをはかる行政を目指し、同市の「電子自治体」化を推進している。既にICカード「大和市民カード」を発行し28万市民の5%が参加し、目標に20%まで高めること。住民基本ネットカードの加入者が0.2%であることと比べると驚くべき数字だ。さらに、市の電子情報交流システム「どこでもコミュニティ」により年間3000件の市民からの意見を得て市政に反映させていると言う。会社通勤時代にトップに対し誰もが意見を言える社内ITシステムを導入し大

混乱に陥ったことを思い出す。経営のひとつの要諦は問題の軽重の判断にあると思うのだが、大和市は予想される情報の洪水にどう対処して行くのだろうか。

つぎに地域通貨システム「LOVES(local value system)」の導入の経過と現状を市の推進者から、つぎに流通を担う代表者として繁華街の店主から実情を聞く。

LOVEの狙いは善意を媒介とした市民(市ではなく民)の元気はつらつ化にある。地域通貨と呼ばれているものの市民全部の参加があるわけではなく、この制度の趣旨に賛同したメンバーによるグループ活動であるとのこと。ここで疑問が湧いてくる。善意をどう評価するか。貨幣のもつ財・サービスの価値尺度機能を捨象して流通するのか。等々。

こうした疑問を抱きながらも、「民草」の意思を第一に汲み取りこれを活かしていこうとする大和市の人々の姿勢に声援をおくりたい。LOVEなど5年単位で経過を観察していくことが必要であろう。卒業研究のテーマとして取り上げリレー方式で継続研究していくのはどうであろうか。

前川 和子

大和学習センターで商店の利用にラプス券を交換することで、市民・消費者間の横の親近感を育成し、これを通して健全な町づくりに奉仕したいという運動を実践しておられるのを説明を通して知らせて頂きました。実際の売買には立会えませんでしたけれど、住民の積極的な姿勢が感じられ、特に若い市民の方々の努力が強く生きているのを感じました。大和市には以前から行く機会が多かったのです

が、前からこの都市の住民中心らしい住心地のよさそうな空気は感じていました。そのわけは、やはり住民の意識とこの様な具体的な組織を形成して日常生活の中で一步一步努力しているところに基礎があるのだという事がわかりました。よい意味のある勉強をさせて頂きました。ラプス組織の成功を祈ります。

学生団体・サークルの お知らせ

放大かながわ レク・サークル

10月19日(日)神奈川学習センター近くの大岡川に沿って、サークル会員によるWalkingを行いました。当日は快晴で学習センター10時出発、国宝弘明寺観音にお参りをして、お賽銭に余る?学業の成就を祈願し、戻って通称大岡川プロムナードと呼ばれる歩道を横浜方面に歩きました。

大岡川両脇の歩道は春には見事な桜並木となつて、沢山の花見客が訪れますが、秋には色付いた桜の葉が持ちこたえられずに川面に落ち、鯉や亀に影を作るのも見ていて心を和ませてくれます。当日は小さな亀が、川の側壁にうまく乗って甲羅干しなどをしており、思わず「たまちゃん」を連想してしまいました。

しばらく川沿いに下ってから蒔田公園を横切って日枝神社にお参りし、更なる学業の成就?を祈願しました。この日枝神社は江戸時代の篤農家が一帯を開墾で農地にした時の鎮守だったようで、時代の流れとともに市街地となつて、神社のみが残されて今に至っているようです。

そろそろお昼も近くなって、運動のせいか体内時計も進み気味なのですが、頑張つて昼食を予定していた清水ヶ丘公園まで一気に向かい、広々とした芝生にシートを敷いて昼食をとりました。

清水ヶ丘公園はご存知の方も沢山いらっしゃると思いますが、京急南太田駅に近く、首都高狩場線を跨いだ形で若干高台に位置しており、そこからは桜木町の中心地が一望できます。10月はコスモスが咲き乱れていて、訪れる人の心を和ませてくれます。レストランなども併設されており、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

そろそろWalkingの終点が近づいてまいりました。公園内のレストランでコーヒータイムを取りながら、単位習得の極意?に関する意見交換などもして、文武両道のレク・サークルを再確認してお開きにしました。出発点の学習センターに歩いて戻って学習される方もおられ、少々バテ気味の小生は感服しきりでした。今度は春にこのコースを辿ってみたいと思います。その節は皆さんの多数の参加を期待します。最後にサークル活動について紹介させていただきます。

1. 通常活動種目:

練習日: 毎月第1~第4水曜日 A M10時から12時ターゲット・バードゴルフ(大岡原っぱ)、P M1時から3時レクダンス・フォー

クダンス(センター内)
2. 校外活動種目(随時)ターゲット・バードゴルフ、シティウォーク、ウォークラリー他
3. 連絡先(入会等の)
代表者: 中嶋 博子
Tel / Fax 0467-83-8203

(文: 佐々木恭夫)

放送大学ダンスサークル

社交ダンスへのお誘い

放送大学ダンスサークルは、当大学の学生とOBの皆さんでやっている社交ダンスのサークルです。定例で、月2回(第2、第4火曜日)午後2時~4時まで、神奈川学習センターで練習をしています。(変更になる時もあるのでご注意ください)

“ 体育の単位が取れます。 ”

インストラクターは学生OBの菊島さん夫妻で、日本ボールルームダンス連盟の公認指導員ですので正しく教えていただけます。

また、放送大学の全科生の方の履修科目に体育実技(30時間履修で1単位)があります。当サークルの練習・実践で単位を取ることができます。

“ それなりに美しく楽しく ”

ダンスは美しく楽しく踊ることを目指しますが、なかなか美しくとは行かないものです。TVで芸能人の社交ダンスの番組をやっていますが、なかなか上手で私達はあのように行きません。そこで、私達のサークルでは「それなりに美しく、楽しく」を目指しています。

“ パーティで楽しく踊れるように ”

ダンスパーティに行くのと初対面のパートナーとも踊らなくてはなりません。どのように踊りを組み立てるかというシークエンスは男性の裁量なんです。うまく踊れるかどうか心配なものです。お互い意気が合つてうまく踊れたらもう最高に楽しいのです。

“ 基本から徐々に上級へ ”

そこでサークルでは、難しいステップよりも、基本的なステップで一通り踊れるようになるのを目標に練習しています。今、全国共通のシークエンスというのが提唱されていて私達の先生もそれを取り入れて指導して下さっています。

1曲の音楽のうちで何回か部屋を回るわけですが、1周目は基本ステップだけで、そして2周め以降は徐々に難しいものへという練習をしています。

“ ダンスホールやパーティで実践 ”

さて練習の成果を、たまにはダンスホールやパーティに出かけて実践します。9月にはダンス旅行ということで塩原温泉へ出かけました。送迎付き1泊2食付ダンスとお芝居つきで4900円と格安旅行でしたが楽しく過ごしてまいりました。11月には先生主催のパーティで、放送大学ダンスサークルということでデモンストレーションに出させて頂きました。ルンバとチャチャのフォーメーションダンスだったのですが、緊張であたふたしながらも、間違えないようにと必死で踊りました。例年、大学の単位認定試験が終わってみんなほっとしたところでどこかへダンスの実践を兼ねて遊びに行くようにしています。

“ さて、費用の方は ”

サークルの会費としては基本的には月1000円ですが、ほか雑費がかかるので3ヶ月で4000円にしています。

“ ご参加お待ちしております ”

こんなサークルですが参加して頂ければ、きっと踊る楽しさを味わっていただけたらと思います。

連絡先は藤田重則(TEL 044-299-044)です。

人間学研究会

【例会】

1月11日(日) 「IT業界の現状とユビキタス コンピューティングの展望」(会場: 第7講義室)

2月例会は、日程内容とも未定です。

3月14日(日) 定期総会

例会は、毎回午後1時から講義室にて行います。卒業研究の発表、ワークショップ等の内容です。入会前には、見学ができます。4月以降も、毎月例会を行います。

例会についてのお問い合わせは、Tel: 045-302-1121 松本まで。

【歩きましょう】

1月1日 元旦大江戸初歩き
1月17日 鎌倉初詣ウォーク
1月22~25日 第12回指宿菜の花マーチ・奄美大島ウォーク
2月11日 景信山・堂所山ハイキング
2月21日 旧下田街道・河津桜ウ

オーケ

3月6日 多摩川左岸(六郷橋~新二子橋)を歩く

3月22~26日 第1回四国8ヶ所巡り(第1~17番札所)

宗教的な巡礼ではありません、歩くことが目的です。

《年間計画(4月~12月まで)》

4月上旬 お花見ハイキング

4月17~23日 第1回塩の道ウォーク(御前崎~飯田)

5月8日 日帰りハイキング

5月中旬 第2回塩の道ウォーキング(飯田~松本)

6月2~6日 第3回塩の道ウォーキング(松本~糸魚川)

6月 日帰りハイキング

7月上旬 北東北地方へ(場所未定)

8月 [海外遠征] オーストラリア北部

9月 日帰りハイキング

9月下旬 苗場山へ

10月1~3日 第4回しまなみ海道スリーデーマーチ

10月中旬 吾妻山・安達太良山へ

11月5~7日 日本スリーデーマーチ(埼玉県東松山市)

11月下旬 第2回四国8ヶ所巡り

(第18~23番札所)

12月11日 年忘れハイキング

12月23日 第12回汽笛一声ウォーキング

日程など変更になる場合があります。

(年間計画については、試案段階であり日程など決定しておりません。) 予備日等の記載は省略していますので、参加を希望される方は、下記まで早めにお問い合わせください。4月以降の日程については、はるだより以降のかながわだよりに掲載予定です。歩きましょうについてのお問い合わせは、

Tel: 046-841-7937 大出 まで。

うえるかむKanagawa

新年おめでとうございます。今年も“うえるかむKanagawa”は元気に楽しいサークル、をモットーに活動していきたいと思っておりますのでよろしくお祈り致します。

“うえるかむKanagawa”は神奈川学習センターに所属する学生及び卒業生のための英会話グループです。

*英会話を何年も学習したが話せない

*以前は話せたがすっかり錆びついてしまった

*もっと実際に役立つ実力を身につけたい

と、思っていられちゃう方も多い事と思います。午前中はネイティブの先生を迎へ初級、中級に分かれてfree talking を楽しみながら学習しています。午後は自主学習で、ラジオ基礎英会話 やGATEWAYSをテキストに、文法や発音、リスニングの練習をするグループと、日頃のニュースやトピックを話題にしてfree talkingするグループ等にわかれています。海外ビジネスで実践英会話を身につけた方々もおります。午前又は午後どちらか一方の参加でも、都合の良い時だけでもかまいません。

*例会 毎月第2、第4水曜日
AM 10:00~11:00
中級 AM 11:00~12:00
初級 PM 13:00~15:00

グループ学習

“うえるかむKanagawa”の母体である“うえるかむ”の行事は休日だけ、又1年に1度しか出席できない人達も集り各支部合同で親睦を深めています。今迄にタイ、台湾、イギリスのオープン・ユニバーシティを訪問、オーストラリアでのホームステイも体験しています。昨年は千葉セミナーハウスでの行事、横浜中華街での暑気払い、白馬散策、秋はわたらせ渓谷散策と群馬天文台での星座観測、4回宿泊行事がありました。勿論行く先々で英語の勉強も忘れません。皆様も是非お仲間になりませんか。

(星 記)

*サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

野末: 044-287-0270

星: 045-844-9647

神奈川放友会

2004年明けましておめでとう御座います。

神奈川放友会は会員相互の親睦を図り学習を援助するイベントとサークル活動を行っています。

行楽と研修を兼ねた旅行

一泊研修旅行(大学本部・博物館等)

旅にいこう会(行楽・名所旧跡等)

情報交換(学習履歴表)と会員相互の研究発表と ITを利用したサークル活動

ホームページ開設

清風亭社の会(E-Mailグループ)

パソコン初心者講習等々

学生生活を充実させ交流の輪に加わる方を歓迎します。

行事予定(1月~6月)

1月11日(日) 1月例会、情報交換、新年賀詞交換会

2月15日(日) 2月旅にいこう会

3月14日(日) 3月例会翌年度の計画、情報交換

4月上旬 学式で会員勧誘と歓迎会

4月下旬 平成16年度総会

5月中旬 月例会、情報交換

6月中旬 6月旅にいこう会

清風亭社の会でも随時イベントを企画しています。

照会/入会申込先

〒251-0025

藤沢市鶴沼石上1-13-13-506

芝崎 芳和

Tel/Fax 0466-25-0090

E-Mail shibasun@gray.plala.or.jp

神奈川放友会のホームページ

<http://www.h5.dion.ne.jp/~jinhoyu>

放友会活動報告:

「10月旅に行こう会・一泊研修」

日時 平成15年10月25~26日
参加 14名(アイウエオ順・敬称略)、
明田 梅太郎、岡本 興和、奥隅 廣介、
木下 義則、木村 勝紀(幹事)、斎藤 京子、
斎藤 多美江、佐藤 アツ子、芝崎 芳和、
寺村 紀美夫、姫田 忠明、古内 都、山田 秀美、吉田 昭二

10月25日、JR横浜駅に13名が集合、総武線千葉行きに乗車途中品川駅にて山田秀美さんが加わり楽しいお喋りしながら千葉駅に到着、総武本線に乗り換えて佐倉駅に12時頃到着タクシーに分乗して佐倉城址公園に向かう、公園の休憩所にて持参の弁当で昼食をすませ国立歴史民俗博物館に入館した、入館料は学割(250円)があり助かる。

この博物館は、昭和56年(1981年)4月に国立の大学共同利用機関として設置された研究機関で、歴史学、考古学、民俗学の三分野の協業を通じて、わが国の歴史・文化を総合的に研究する目的で資料を収集し展示している。展示の構成は第1から第5展示室となっていて、第1展示室から第3展示室までは、原始・古代から近世までの13のテーマを時代順に配置し、第4展示室は日本人の伝承文化に関するもの、第5展示室は近現代のものを展

示しているとのこと。建物も展示物も大変に膨大なものとなっており、一日では見学しきれない博物館である。

10月の特別展示として「先端科学による歴史発見」があるのでそれを先に見学し次いで第1展示室と第2展示室を見学した。第1展示室には「日本のあけぼの」のテーマにて旧石器時代と縄文時代の文化等が展示され、「稲と倭人」のテーマで水稲農耕の文化が展示され、「全方後円墳の時代」「律令国家」「王朝文化」の各テーマにて特徴ある文化遺産等が展示されている。第2展示室には「東国と西国」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」「大航海時代のなかの日本」「印刷文化」の各テーマにて各種文化遺産が展示されていた。第2展示室の見学で時間が迫ってしまい、残りの第3から第5展示室は残念ながら見学出来なかった。また次の機会に見学してみたいものと思う。

博物館前よりバス、JR佐倉駅、JR総武線幕張駅を経て放送大学本部に到着セミナーハウスにチェックイン後大学近くのレストランにて夕食 帰り道、コンビニにて明朝の朝食を購入した。1日目の最後のイベントとしてセミナーハウス内の研修室にて私(寺村)が講師となり「健康談義」として、講演し実技を披露した。

講演 ホリステック医学(医療)とはアロマセラピーとメデカルハーブ概論 栄養補助食品(サプリメント)概説 リフレクソロジーの概説とその実技実技 明田さんにモデルをお願いしリフレクソロジーを施術した。

就寝前に全員が談話室に集まり少々のアルコールとおつまみにて賑やかに談笑し、楽しいひと時を過ごした。寝る前に歩数計を見ると14,700歩となっていた。

第2日目(26日)は快晴で、気持ちの良い青空となっていた。7時に宿泊棟の前庭にて岡本興和講師による太極拳の実習と山田秀美さんの中国伝来の模範太極拳を披露があった。岡本さん、山田さん有り難うございました。朝食後放送大学本部の図書館を見学した。この図書館は三階建てで、1階には、メインカウンター、情報検索室、映像音響資料室があり、映像音響資料室には、放送大学の全ての放送授業の視聴テープやその他市販の一般教養テープなど映像音響資料約14,000巻が備えられ、ゆったりとした個人ブースで視聴できるので大変に羨ましく思う。2階には、約23万冊の図書と、約1,300タイトルの雑誌バックナンバーが配架してある。3階には、新着雑誌コーナー、グループ視聴室・実習室、パソコン利用室などがある。次に千葉学習センターを見学した。このセンターにも図書室があり千葉県の学生は設備が充実していて大変に恵まれ、羨ましいかぎり。

放送大学本部を後にして、JR京葉線海浜幕張駅より葛西臨海公園駅へ向かう。

葛西臨海公園の鳥類園にてバードウォッチングツアーを楽しんだ。この葛西臨海公園も大変に広大な面積で大きな干潟もあり野鳥の生息場所

となっている。今ごろ見られる野鳥は、白鷺、鴨、川鵜などである。その他、私には名の不明な鳥達を沢山見ることができた。

バードウォッチの次は、水族館見学である。館内に入りレストランにて昼食後思い思いに館内を見学した。圧巻なのは巨大なマグロの水槽である。美味しそうなマグロが数十頭も泳いでいるので、暫らく見惚とれてしまった。その他、ペンギン、渚の生物、各種の魚達が展示されているので楽しく見学できた。館の外側には、「水辺の自然」のテーマにて以前東京でも普通に見られた川や池が人工的に作られていて、池や沼をガラス越しに見学できるようになっていた。昔、子供の頃、泥まみれになっていた頃のイメージと重なって、懐かしくなってしまった。

水族館見学の後は、海上バスにて東京湾内を航行しパレットタウン、東京ビックサイトを経由して日の出桟橋へ向かった。高層ビルや巨大な橋を海上より眺めるのもおつなものである。羽田空港に航空機が発着している様子も遠望でき、東京の巨大な人工建造物には地上で見るとより、海上から見るほうがより圧倒される感がある。日の出桟橋に上陸後浜松町のビル地下の飲食店にて打ち上げ、ビールで乾杯談笑して散会。

今日の歩数計は21,300歩、昨日との合計34,300歩でした。皆様、色々とお世話になり、また楽しい会話有り難うございました。特に幹事の木村さん、下見までされての企画、本当に有り難うございました。

神奈川放友会 寺村 紀美夫 記

UA神奈川学習センター ふゆだより編集部

発行者：神代和俊

編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、
松本、皆川、吉田、村山、石川、坂井

・学生の方々の「ボランティア活動」と恒例「学生研修旅行」を特集しました。イラストは、坂戸五葉さんをお願いいたしました。

・ホームページで、神奈川学習センターの教務予定表を載せる試みを行っております。ご意見をお寄せ下さい。

ホームページもご覧ください。
<http://u-air.net/kanagawa/>

次回、神奈川学習センター「はる」だよりの特集テーマは、「卒業と入学」についてです。卒業・入学の感想など学生の方々の原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて3月中旬までに、E-Mailで、あるいはセンター窓口までお寄せください。また、「書評」「読後感想文」も400字程度で受け付けます。数多くのご応募をお待ちしています。

